がんばろう日本！　がんばれ東北！

なんでもインフォ 絆

2012.1

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。今年も「なんでもインフォ」をご愛顧下さるよう、宜しくお願い致します。

発　行　株式会社 昭和土木設計
岩手県矢巾町流通センター南４丁目１−23　　Tel 019-638-6834　Fax 019-638-6389

復興支援ボランティア活動について

はじめに

昨年は、３月 11 日に発生した「東日本大震災」により大変な１年となってしまいました。一日も早い復興に向けて、被災地ではボランティアの方々の献身的な支援活動が行われ、各地で多くのチャリティーイベントなども行われています。

そこで、今回の「なんでもインフォ」では、今後も被災地の復興に向けて、多くの方々からのご協力が戴けますように願いを込めて、ボランティア活動について取り上げてみました。

ボランティア状況

岩手県内の災害ボランティアセンターを通じた活動者数は、平成 23 年 11 月 15 日までで延べ 31 万人を超えております。そのほかにもセンターを経由せず、NPO などの団体で独自に支援活動を行っている方々も数多くいるようです。

各月ごとの人数　　※参考値（仮集計値）

	3県合計	岩手県	宮城県	福島県
3月	58,800	12,100	26,600	20,100
4月	157,500	34,700	92,600	30,100
5月	171,700	46,000	91,500	34,300
6月	128,700	42,200	64,700	21,800
7月	125,200	46,400	62,700	16,100
8月	97,300	48,200	40,200	8,800
9月	59,400	36,400	19,700	3,300
10月	46,200	25,500	16,900	3,800
11月	34,000	19,900	12,200	1,900

やや減少傾向

出典：岩手防災情報ポータル

ボランティア活動までの流れ

ボランティア活動を行うまでの大まかな流れは、次の通りとなります。

ボランティア活動の流れ

1. 事前準備（各災害ボランティアセンターの募集状況、受入れ状況、交通手段等の確認、宿泊施設の確認）
2. 当日受付（所定の時間内に受付（氏名、住所、ボランティア経験、保険の加入状況等を記載）を行う）
3. 作業調整（担当するボランティア作業の調整を行ってもらう）
4. 現場移動（必要な資材や情報等を受け取り現地に向かう。基本的に作業リーダーを中心に複数人での行動）
5. 支援活動（各現場のニーズに沿った支援活動を行う。作業リーダーを中心に安全な活動に心掛ける）
6. 活動報告（災害ボランティアセンターに戻り、活動内容や問題点・気づいたことなどを報告する）
7. 解　　散（事故のないように自宅や宿泊先へ帰る）

ボランティアの主な仕事内容

ボランティア活動には、瓦礫等の清掃・撤去や炊出しなどを行う一般的なボランティア活動のほかに、地域によっては専門的な支援（看護師、介護福祉士、理美容師など）を必要とする場合もあります。資格を活かしたボランティア活動を希望される方などは、事前にボランティアセンターにお問い合わせすることをお勧めします。

岩手県の災害ボランティアセンター

沿岸地域の活動先災害ボランティアセンターは以下の通りです。詳しい情報はインターネットでご覧になれます。

沿岸地域の災害ボランティアセンター一覧

災害VC	郵便番号・住所	電話番号
野田村	〒028-8201 九戸郡野田村大字野田20-38-5	0194-71-1414
宮古市	〒027-0038 宮古市小山田2-9-20	090-4478-3984
山田町	〒028-1341 下閉伊郡山田町八幡町12-9（旧岩手県立山田病院3階）	0193-77-3262 090-2853-5794 090-8353-0032
大槌町	〒028-1131 上閉伊郡大槌町上町1-1	0193-41-1555
釜石市	〒028-1131 上閉伊郡大槌町上町1-1	0193-22-2310
大船渡市	〒022-0003 大船渡市盛町下舘下14-1	090-7320-6504
陸前高田市	〒029-2202 陸前高田市横田町字狩集96-3	090-2852-9736 090-1344-5758（依頼）

参考：岩手防災情報ポータル

※ご連絡の際にはお間違いのないようにお願い致します

また内陸部では、盛岡市、花巻市、北上市、一関市、奥州市などでも災害ボランティアセンターや復興支援センターが設置されております。

宿泊施設について

日帰りでなければ事前に各自で宿泊施設を手配することがボランティアのマナーです。

沿岸部の宿泊施設でも一部利用可能なところもありますし、沿岸部に隣接する市町村のボランティアセンターではボランティア専用の宿営地を運営している場合があります。内陸部のホテルや民宿などではボランティア料金を実施しているところもあります。

また、地域によっては日帰りでボランティア活動ができるように「ボランティアバス」を運行しています。運行状況については各ボランティアセンターのホームページに順次掲載されています。

ボランティアの心得

ボランティア活動を行う際には、現地への負担を軽減させるため、以下のことを心掛けることが大切に思われます。

1. 大前提として被災地に迷惑をかけない行動をとる。
2. 本人の自発的な意思と責任で行う（家族にも了承を得ることがよい）。
3. 希望地の募集状況、交通手段、宿泊施設等は事前に調べておく。
4. 単独行動は避け各ボランティアセンターや作業リーダーの指示に従う。
5. 作業着、長靴、手袋、ヘルメット、マスク等の衣類や、飲み物、食べ物等は各自で用意する。
6. 身分を証明できるものを身に着ける。
7. 無理はせず体調管理は自身で適切に行う。

おわりに

弊社は、災害復旧事業や復興計画事業等に携わることで被災地の復旧・復興に御協力させて頂いております。また、社員の中には個人的にボランティア活動を行っている者もおります。今年も昨年同様、公私ともに被災地の復興活動に御協力させていただきたいと思います。

そして、一人でも多くの方のご協力による強い『絆』のもと、一日も早い被災地の復興を切に願います。

がんばろう東北！！がんばろう岩手！！

株式会社 昭和土木設計の紹介

弊社は，道路・河川・橋梁等の計画・設計，GIS，IT ソリューション等の業務を行っております．

”なんでもインフォ“のバックナンバーについては http://www.showacd.co.jp をご覧ください．

配布者

作成者：コンサルタント事業部